

洛窓会 東京支部活動状況

令和3年度 東京支部代表幹事 住友化学株式会社 両角 文明 (57回卒)

令和3年度 東京支部総会報告

1. 開催状況

日時：2021年7月7日(水) 16:00~18:00

開催方法：オンライン(総会のみ実施、懇親会無し)

出席者数：93名

2. 総会

1) 洛窓会東京支部長挨拶

住友化学株式会社 取締役副社長 上田 博 様

冒頭、新型コロナウイルス感染症の影響に対するお見舞いの言葉の後、開会挨拶及び総会参加者への謝意を示された。

わが国でもワクチン接種が漸く加速し始めた状況を鑑み、一定程度の犠牲を許容して速度・効率・成果を重視する欧米の政策と、非効率だが全員の幸福を追求する日本の政策の違いについての感想を述べられた。最後に、参加されている特に若い世代に向け、講演で大いに刺激を受けて頑張ってもらいたい旨メッセージがあった。



2) 講演会

講演1「社会課題の事業化

～3000億円の事業を生み出すビジネスプロデュース」

(株)ドリームインキュベータ

代表取締役社長 COO 三宅 孝之 様

大規模な事業を創造する「ビジネスプロデュース」について、これまで手掛けられた事例を交えながらお話しいただいた。スタートポイントとなる「構想」の例として、グリーンシティ構想や介護予防分野での取り組みが紹介され、あるべき政策検討範囲や、企業の創意工夫と社会貢献に結びつける仕組みを作ることの重要性が語られた。構想を具体化するための「戦略」については、特に鍵を握る「フックと回収エンジン」、従来のコンサルティングの枠を超えた「プロデュース」の有効性、大きな市場に繋がる政策連携の成功例(LED照明の市場創造)の説明をいただいた。仲間づくりやルール作り、業界を枠組みを越えた発想のビジネスプロデュースにおいては、自身の専門分野の「深掘り」だけでは成し遂げられないものであり、新規事業創造に頭を悩ます企業からの参加者にとって、「共感」と両立させて取組む必要性を感じる示唆に富む内容であった。

通商産業省(現・経済産業省)におけるご経験をベースに、官民双方の視点を織り交ぜた、軽快で理解し易いご講演であった。事業創造について興味のある方、詳細を知りたい方は、ぜひ著書を参照されたい。



講演2「化学工学に携わった40年の回顧とさらなる 発展を期待して」

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻

前 一廣 教授

冒頭、ご略歴と研究年表を貴重なお写真とともに紹介され、場の雰囲気や和ませていただいた後、現代社会が関わる重要な課題の一つである真の環境調和型社会の構築について問題提起された。持続的発展のためには、エントロピー増大速度を自然界のそれと摂動させる必要があるとお考えに基づき、その解決策として分散型社会のシナリオ構築、脱炭素ではなく「蓄炭素」の重要性、コプロダクションやシーケンシャルユースの必要性について、論理立てて分かりやすく説明いただいた。具体例として、バイオマスのローカル資源としての可能性、マイクロアクターによる分散型生産(パラダイムシフト)への期待が述べられた。



一方、化石資源の今後について、CO₂ エミッションを削減するための理論的検討として、電力/化学生産融合システムの提案、石灰製造プロセスにおけるコプロダクション、製鉄プロセスのゼロエミ化シナリオが具体的なフローやバランスと共に示され、開発されたメタンからの CO₂ フリー水素製造触媒にも言及された。

最後に、化学産業のスマート化のベクトル、化学工学が挑戦すべきフィールド（非線形、非平衡、非定常）について大きな期待を持って述べられた。

大学で受けた講義を彷彿とさせられる熱のこもったご講演であり、昨今の情勢から、環境調和型社会の実現に何らかの形で関与する参加者にとって、化学工学の果たすべき役割を再認識し、大きな刺激を受ける内容であった。

3) 京都大学と化学工学教室の近況

京都大学大学院工学研究科 化学工学専攻
外輪 健一郎 教授

京都大学の近況とこれからの歩みについてご講演をいただいた。昨年初頭より世界中で新型コロナウイルス感染症が拡大し、京都大学においても、講義や研究活動を継続するために様々な対策とられた。講義や試験、プロセス設計(2021年度は対面での予定)、オープンキャンパス、卒論・修論発表会もオンラインで実施され、感染拡大防止に取り組まれている等の実情を説明いただいた。

オンラインのオープンキャンパスでは、化学工学専攻の模擬講義や、学生が作成した学科紹介動画がコンテンツとして取り上げられ、今後の社会を創造していく新たな人材の確保に貢献されているとのこと。

京都大学では湊新総長が就任され、2022年の京都大学創立125周年を迎えようとしている。京大が、新輝点をスローガンに掲げ、学問のさらなる可能性を考究する点が述べられた。

化学工学専攻でも、化学プロセス研究コンソーシアムが設立され、幅広い産学連携のプラットフォームを構築されている。また、化学工学の基本となる書籍の「現代化学工学」が改訂され、化学工学専攻の現教員が執筆者として追加したことが紹介された。

最後に人事異動に関し、2021年3月末日での大嶋先生の工学部長・工学研究科長、宮原先生の工業化学科学科長の任期終了、2022年3月末日の前先生のご退職予定が伝えられた。



4) 次年度代表幹事・洛窓会会長ご挨拶

富士フイルム株式会社 郡 順一様から来年度代表幹事を務めるに当たっての抱負が述べられ、次年度の総会への参加が呼びかけられた。

続いて、洛窓会会長 田門 肇 名誉教授から、講演者の皆様、参加各位、および運営関係者への謝意が述べられた後、講演でも議論が交わされた環境調和型社会実現に向けた技術開発のやりがいと難しさ、化学工学教室出身者への期待が述べられた。

最後は、恒例の琵琶湖周航の歌をBGMに代表幹事から参加者全員への謝意を述べ、お開きとした。

4. 総評

初めてのオンラインでの開催にも関わらず、年代を問わず、これまで対面による総会と同様の93名の方にご参加頂き、盛会の内に終えることができた。

運営面では、化学工学教室には、洛窓会オンラインシステムの出欠確認への活用、大学のZoomアカウントの使用等、多大なるご協力をいただき、お陰で大きなトラブル無く運営を行うことができた。



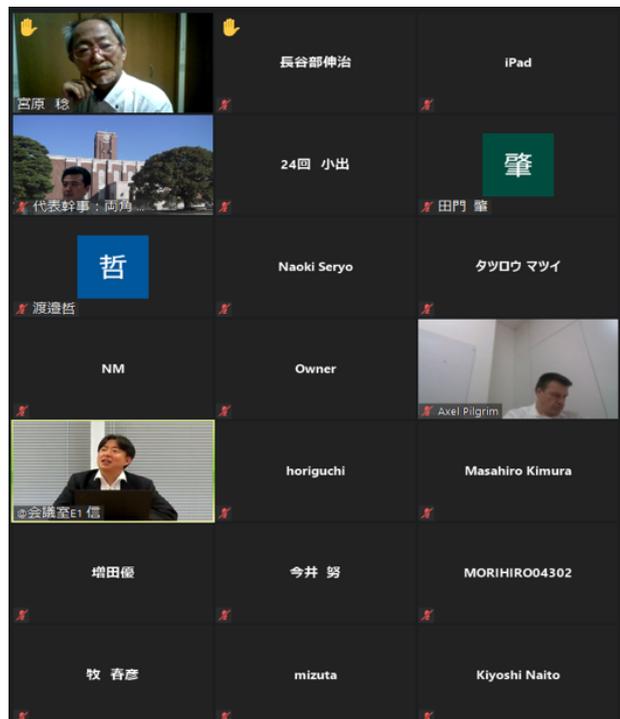
5. 会計報告

オンライン総会ということで、予算を殆ど使用せずに開催することが出来た。繰り越した予算は、次年度以降対面での支部総会に有効に活用させていただきます予定である。

6. 最後に

支部総会開催にあたり、ご多用の中大変示唆に富んだご講演をご準備いただいた三宅様、前先生、外輪先生に心よりお礼を申し上げます。また、支部総会開催に当たっては、洛窓会本部の諸先生方（田門先生、松坂先生、渡邊先生、谷口先生、中川先生）、支部幹事会社代表の方々に多大なご助力・アドバイスを頂戴しました。心より感謝いたします。

以上



総会の様子（三宅様への質問場面）